



まとい 消防瓦版纏

火災・救急・救助 119

No.376

富良野広域連合富良野消防署占冠支署
56-2119

ガソリンを携行缶で購入される皆様へ

令和元年7月18日に京都府京都市伏見区の京都アニメーションスタジオにおける極めて重大な人的被害を伴う爆発火災を受け、同様の火災事案の発生を抑制するために、次のとおり省令が改正されましたのでお知らせいたします（令和2年2月1日施行）。

事業者がガソリンを携行缶で購入される方に対して、本人確認（運転免許証の掲示など）及び使用目的の確認を行うことが義務付けられました。また、ガソリンの適正な使用を徹底するために次の注意事項を守ってください。

- ①ガソリンは消防法令に適合したガソリン用金属製容器に入れてください。（灯油用ポリ容器に入れることはできません）
- ②容器に貼られている注意事項に留意して取り扱ってください。
例：エア抜きをする、高温場所での保管禁止等
- ③セルフスタンドにおいても、ガソリン容器の詰め替えはガソリンスタンドの従業員が行う必要があります。



救急出場状況（12月分）

交通事故	4件	(2人)
運動競技	1件	(1人)
一般負傷	15件	(14人)
急病	7件	(7人)
12月計	27件	(24人)
累計	216件	(195人)
※（ ）内は搬送人員		

地域とともに コミュニティ・スクール情報 ～トمام学校～

本校は『CSとして地域と協働しつつ、さまざまなヒト・モノ・コトを活用した体験活動を重視し、トمامだからこそできる教育、トمامならではの特色ある教育』を推進しています。



2年生の生活科では、トمام地域の公共施設等を訪問させていただき、支所（6/21）、郵便局・消防団（6/14）、あるぶすペンション（7/18）、歯科診療所（7/24）でのインタビューや見学、ミナ・トمام（10/9）や保育所（10/10）でのお仕事など、貴重な体験活動をさせていただきました。また、トمام保育所との幼・小の連携事業として、園児を招待して『クリスマスおもちゃパーティー』を開催しました。児童による絵本の読み聞かせや、手作りのゲームコーナーで楽しく交流を深め、とても成長した姿が見られました。

学校支援地域本部事業としては、学校花壇への花植（5月）、山菜学習（6月）、陶芸教室・自然体感占冠（7月）、学芸会演劇ダンス指導（7～9月）、調理実習（10・11月）、裁縫教室（11月）、読み聞かせ（10・12月）等で、学校支

援及び地域人材ボランティアの方々に大変お世話になり、質の高い学びを提供していただきました。また、地域との連携事業として、町内会の交通安全キャンペーン（9月）、学校支援地域本部の子どもレストラン（11月）、社会福祉協議会のふれあいもちつき会（12月）に児童生徒が参加させていただきました。

保護者・地域の皆様には、教育の『当事者』として学校運営や子供たちの教育活動に積極的に参画していただき、学校と地域が連携・協働して地域の子供たちを育てていくための『地域とともにある学校づくり』を推進し、『社会に開かれた教育課程』の理念を実現する取組に努めて参ります。今後ともトمام学校へのご支援、ご協力と、トمامっ子への応援をよろしくお願いたします。

占冠村教育委員会 56-2182



3月は自殺対策強化月間

平成10年以降、自殺者数は3万人を超えた状態が続いていましたが、平成24年から徐々に減り、平成29年は2万1,321人（警察庁：自殺統計）となりました。

国は、自殺者数の多い3月を自殺対策強化月間とし、啓発に取り組んでいます。大切ないのちを守るため、知っておきたいことを今回ご紹介します。

①日本の『自殺率』は深刻な問題

日本以外の先進国では、15歳～34歳の死因の第1位は『事故』ですが、日本のみ第1位が『自殺』となっています。日本では、20・30歳代の若年層の自殺率が年々増加しています。思春期・青年期は、進学や就職の環境の変化、複雑な人間関係など様々な不安や悩みに直面する時期です。それに加え、ネット社会により対人関係の希薄さ等から、こころの病気を発症する若い世代が増えています。

また、自殺が最も多い年代は、50歳代です。原因・動機で最も多いのは、『健康問題』です。次に『経済・生活問題』『家庭問題』『勤務問題』となっています。自殺に追い込まれる原因は一つではなく、様々な原因が複雑に絡んでいると言われています。

自殺者数は減少してきていますが、自殺は深刻な問題となっています。

②ひとりで悩まずにまずは相談を

自殺したいと思うときは何らかのこころの病を患っている人が大半です。心身を健康な状態に保ち、こころの病と上手に付き合うことが、自殺予防には大切なことですが、こころの病は知らないうちにかかっています。自分では気づかないことが多いのですが、悩みや不安を一人で抱えこまず、勇気を出して親しい人に相談してみましょう。他にも公的機関の相談窓口を利用してみるのも手段のひとつです。



【相談窓口】

- こころの電話相談（北海道） ☎0570-064-556
- 法テラス ☎0570-078-374
- 北海道立女性相談援助センター ☎011-666-9955
- 各警察相談センター ☎#9110
- 子ども相談支援センター ☎0120-388-256
- 北海道ひきこもり成年相談センター ☎011-863-8733

③いのちを支えるためにできること

身近に悩んでいる様子の人がいれば、まずは優しく声をかけてください。周囲の気づきで、大切ないのちを支えることができます。自殺の危険性がある人に気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のことを『ゲートキーパー』といいます。

一人ひとりがゲートキーパーとなることが自殺予防へとつながっていきます。

④関連図書の紹介

村では、3月は自殺対策強化月間として、啓発活動を行います。その一環として、占冠村コミュニティプラザ図書室に自殺対策関連図書コーナーを設けますので、ぜひご覧ください。